

第400号

主な記事

1面	年頭所感 達増知事との懇談 第28回岩手県保険医芸術展受賞作品
2面 3面	新年特集 新聞400号記念 保険医協会の軌跡
4面	若い声 特集 一将来を考えてみて 今思うこと— 第28回岩手県保険医芸術展受賞作品



発行所

岩手県保険医協会  
〒020-0034  
盛岡市盛岡駅前通15-19  
TEL 019-651-7341(代)  
FAX 019-651-7374  
発行人 箱石勝見  
購読料 年2,400円(〒別)  
会員の購読料は会費に含まれています。

年頭所感



岩手県保険医協会  
会長 箱石勝見

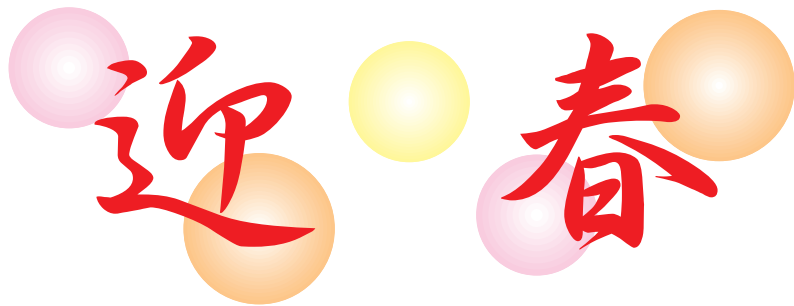
新年、明けましておめでとうございます。  
2009年は政権交代という歴史的な年となりました。痛みばかりを押し付けられる前政権からの脱却が実現されました。民主党の政権公約(マニフェスト)は、社会保障費の引き上げ、医師養成の1.5倍化、後期高齢者医療制度の廃止など、私たちが求めてきた社会保障の充実を高らかに掲げています。新政権は、生活保護の母子加算の復活、すべての肝炎患者の救済を目指す肝炎対策基本法の成立など少しずつ成果を上げています。

しかし、レセプトのオンライン請求は前政権と同様に義務化の方針を打ち出しました。保団連や各協会などの強力な取り組みにより、先ごろ義務化は撤回されたところですが、診療報酬についてマニフェストには「累次の診療報酬マイナス改定が地域医療の崩壊に拍車をかけました」とありました。地域医療再生のためには今度の改定で大幅なプラス改定が不可欠ですが、事業仕分けや財務省からのけん制もあり先行き不透明な状況です。

経済状況が厳しさを増す中、安心して受診できるよう、マニフェストにはない患者一部負担金の引き下げ、歯科医療の保険適用の拡充なども引き続き求めていく必要があります。

政権交代は実現されましたが、これからも社会保障の充実のため私たちの取り組みは続きます。これまで前政権では取り上げていただけなかった意見や要望について国政に反映させることができるよう、今まで培ってきた活動を発展させて参りたいと存じます。

先生方におかれましては、引き続き、協会活動にご理解とご協力を賜るようお願い申し上げます、年頭のあいさつと致します。



第28回 岩手県保険医芸術展

保険医協会会長賞



上高地の春 —5月初め— (絵画)

千田英夫氏

県の医療を守っていききたい

達増知事との懇談



達増知事(左から2人目)を囲んで

盛岡市内のホテルで12月16日、達増拓也岩手県知事との懇談が行われました。

達増知事は冒頭のあいさつで「医療問題は県政の最重要課題だ。懇談では現場の実態を伺える事を楽しみにしている」と懇談への意気込みを述べられました。また、当協会が2008年度末に行った『在宅介護に関するアンケート調査結果』について、資料は全て目を通されたことでした。

懇談では、まず小山田副会長より県内の国保資格証明書の問題や介護施設の待機者の問題、歯科医療の現状などについて資料説明しました。その後、小野寺常任理事が県内の子どもの貧困の実態や、県の乳幼児医療費助成制度の課題点について説明しました。

これらを受けて知事は「公約に『地域医療の再生』を掲げた。県立病院の院長や勤務している同級生などから、医師の疲弊は極限に達しており何とかして欲しい」と要請を受けた。県の医療を守るには

勤務医を絶望させられないと考え、県民に対して、できるだけ平日の日中に地域の開業医にかかってもらうなど受診の方法について呼びかけ理解を求めた。県民一人一人が医療を支えていくという自覚を持つてもらうことが重要だ。一連の県立病院問題は苦渋の決断だったが、県民に医療問題を考えただけの良い機会となった」と述べました。

懇談では医師の偏在の問題、研修医制度のありかたなど、国の医療行政についても意見交換がされました。

最後に知事は「保険医協会の取り組みは参考にしている。今後も、情報や提言を発信し続けて欲しい」と協会に対する期待を述べました。

新年集 新聞400号記念 岩手県保険医協会の軌跡

2010年の新年特集号は、記念すべき新聞発行400号と奇跡的に重なりました。そこで、岩手県保険医協会の前・現会長と、歴代事務局長から協会に対する思いを寄せていただきました。



協会の思い出

前会長 須原 富次

協会との出会い

会長 箱石 勝見

Table with 2 columns: Association History (協会史) and Medical Information (医療情勢). Association History lists events from 1974 to 1999. Medical Information lists trends in medical fees and insurance from 1974 to 1999.

入局時の秘話

元事務局長 伊藤 孝

私が岩手県保険医協会の事務局に入ったのは、1975年の9月1日からです。27歳のときでした。7月の下旬に当時盛岡民主診療所の所長であった吉田久医師が私のもとに来て、「保険医協会という開業医の団体を岩手にもつくりたいから、ぜひその仕事をやってみませんか」と頼まれたのが始まりでした。

「三箱ポイ」からの脱却!

前事務局長・事務局参与 山内 敏子

謹賀新年、そして400号の発行おめでとございます。無理な退職をお願いします、3年弱が経過しました。でも協会のことは一日たりとも忘れたいことはありません。

Table with 2 columns: Association History (協会史) and Medical Information (医療情勢). Association History lists events from 2000 to 2009. Medical Information lists trends in medical fees and insurance from 2000 to 2009.

# 若い声

## 将来を志すみて今思い

岩手医科大学医学部

第4学年 清野 太郎

岩手医科大学の医学部に入学して4年がたち、学生生活も残り2年ある2年となりました。振り返ってみると入学した頃は医師に対する憧れや尊敬のほうが強くなり、自分が医師になるという自覚や責任感はまだほとんどなかったことに気がかかれます。講義や実習で、現場に立って仕事をされている先生方から指導を受け、また自分で勉強するようになって、将来自分が何をしたいか、またどのような医師になりたいかを考える機会が日に日に増えてきました。

私は盛岡出身です。地元で生活してきたので、将来は岩手に残って研修、そして仕事をしたいと考えています。地域医療実習などでいくつかの病院を廻らせてもらいましたが、それぞれに特色があって非常に魅力を感じました。一方人手が足りず維持できない科があったり、激務であったりという現状もありました。岩手だけの県内でもその地方が抱える課題についてのことは、日々考えると思います。我々学生が近い将来その中に加わり仕事をサポートしていかれるのを過すことには、少しは貢献できたいという意識を持っています。これから日々を過すことになりました。

## いま私がやらなければいけないこと

岩手医科大学医学部

第4学年 早乙女 啓子

こんにちは。日ごろは遊びや学校の試験などに夢中になり、つい広い視野で物事を考える事を怠りがちですが、岩手県保険医協会の活動を知り、何かかと思っております。

この数年で、社会は大きく揺れ動いています。社会制度も目まぐるしく変わり、実態のつかめないお金や情報が行き交って日本全体が不安に包まれているように感じます。もはや、ここに居れば一生を安心して過ごせるというような場所は社会のどこにも存在しないのではないかと思います。もちろん医療の世界も例外ではありません。

そんな中、個人の力が問われるのだと思います。それは、自分に何が出来るのかを知り、それを活かして社会に還元していく事。そして足りないものを知り、助けてもらわなければならないこともあると思います。医療従事者は、労働者である自分の身を大切に同時に社会の健康を守るために、医療制度を内側から立て直す必要はないかと思っています。そのときに一番力になるのは現場を知る一人ひとりのアニアだと思っています。私が社会に出たときには先輩方のお力添えを頂くこともあると思いますが、自分自身がアイデア豊富な医師になるため今から努力しなければと思います。

## 将来の思い

岩手医科大学歯学部

第5学年 三田 綾子

私は岩手医科大学歯学部5年に在籍し、現在臨床実習をさせていただいている。よく患者様から「もっと歯を大切にしておけばよかった」という言葉を聞く。時はすでに遅し、歯が大切と気付く頃には、歯を残せず補綴処置を行わなければならないのだ。このような事態を減らすべく自分に何かできないかと考えるようになった。

まず一つは、予防歯科の重要性を今以上に啓蒙することである。メディアの力をうまく使い、多くの人に歯に関心を持たせたい。その一つは、研究である。例えば、ミュータンス連鎖球菌など、う蝕の原因菌を特異的にターゲットにする歯磨剤や含嗽薬の開発、人のゲノム配列が解読された今、人の遺伝子のどこに歯学との関わりがあるかを見つけ、その発見により、さらに臨床応用にまで結び付けるような研究をしたい。歯科領域に新たな発見があれば、人々の関心が集まり、デンタルQも向上するであろう。

このようにして人々の幸せに貢献できればいいと思います。

## 将来の思い

岩手医科大学歯学部

第5学年 堀江 哲

私が歯学部を志望したのは、前職がテニスコーチをしていたため、スポーツ歯科を学びたいと考えたからです。スポーツ選手にとって歯は大切なものであり、とりわけ咬合はスポーツパフォーマンスに影響を及ぼすとも言われています。それだけでなく食物をしっかりと咬むことは栄養摂取の面からみても大切だと思います。よく噛むことは成長期の子供達にとっても大切で、歯を守ることはその子供の発育にとっても大きな影響をあたえます。私が歯科医師になって一番やりたいことは、口腔ケアを軸としたスポーツ選手の健康管理です。物をしっかりと咬めなければ栄養は偏り、いざという時に100%のパフォーマンスを発揮することができません。

また、歯の外傷で健康な歯を失えばその後の選手のQOLを下げる原因にもなります。外傷予防のためのマウスガード作製なども歯科医師の仕事です。私は歯科医師になつて多くの選手を笑顔に出来るようなスポーツ歯科医師になりたいと思います。

## 広報活動がより重要に

事務局長 島山 恒平

私が保険医協会に入局して10年ですが、医療界はここ10年で相次ぐ制度改悪、診療報酬引き下げとなり、非常に厳しい状況が続いております。それ以前にも、その時代時代で医療や社会保障等についての問題や苦労があったために、医師歯科医師という専門家の集団である保険医協会が存在し、これから求められるものはより重くなるものと考えております。

今後の運動と組織の発展のためには、より地域住民を巻き込む活動が重要だと考えます。とりわけ若い層をいかに巻き込んでいくか、これは一つの課題であると考えます。昨今の一般公開のイベントには、積極的に学生へのアプローチを行っておりませんが、参加した学生は、イベント後のアンケートにも、隙間なく意見を書いてくれる方が多いです。「最近の若いモンは・・・」という言葉は、いつの時代も言われ続けている言葉と思いますが、彼らは特定の活動に熱心なわけではなく、いわゆる普通の学生です。昨今の社会情勢が混乱している時代に学生時代を過ごしているからこそ、社会に対する意識も高いのかなとも思います。そこに運動発展の希望があります。

あとはきつかけの問題を考えます。老若男女にもインターネットは普及しており、良きしる悪きしる情報が氾濫し、顔が見えない同士の無数のコミュニティーが存在する時代です。そのためにも、一貫して国民の医療と健康の向上を目指してきた保険医協会の広報活動は重要であり、その一環である岩手県保険医新聞やホームページを視覚的にも向上させることがそのきつかけに繋がるのではないかと考えます。補佐役である私たち事務局も、チームとしての総合力を高め、視野を広く持ち、活動発展の一助になりたいと思っております。

## 第28回 保険医芸術展受賞作品

### ～ 実行委員長賞 ～



「幸せのリレー」(写真)

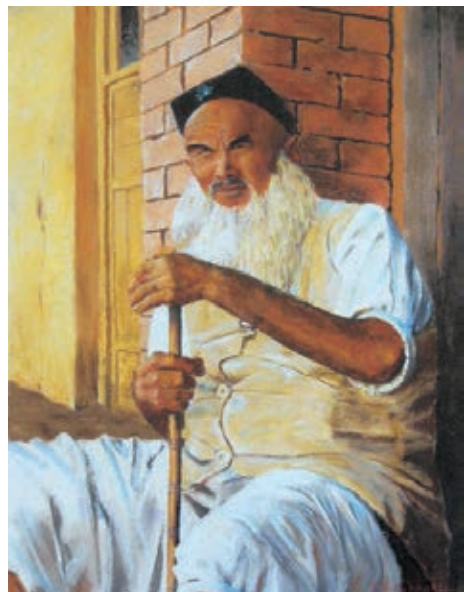
田村 恵子氏

「俳句」(写真と俳句)

深澤 範子氏



### ～ 保険医芸術展賞 ～



「ウイグルよ 永遠に」(絵画)

熊谷 達央氏